

GeoSchool

1120323 野村琢人

高知工科大学工学部社会システム工学科

1. はじめに

・2011年9月17日にノルウェーのランゲスンで開催されている「欧州ジオパークネットワーク (EGN) 会議」で室戸市は世界ジオパークに認定された。世界ジオパークの目的は地質遺産を保護・研究・ジオツーリズムに活用し、教育や地域社会に貢献することにある。地質、文化、生態系の多様性など、その自然の重要性が世界から注目されている室戸において、こどもたちに自然の偉大さを肌で感じてもらいたい。私はこの室戸ジオパークの目的でもある「教育」という観点に注目した。こどもの感受性は大変豊かである。こどもたちが幼い頃感じた思いを次の世代へと受け継いでほしい。そのような思いから、室戸市に小学校を提案することを考えた。

2. 既存小学校の規模

・既存の室戸小学校は全児童数約200名、11学級で構成されている。

3. 敷地の選定

3.1 敷地の現況

・敷地は、高知県室戸市室戸岬町6811にある室戸中央公園を対象にした。
・室戸市の南東に位置し、室戸市役所から徒歩約20分の距離にある。開発により広大な平地となったこの場所は、太平洋を一望でき、かつ、森や林といった木々が立ち並ぶ自然に極めて近いというポテンシャルがある。しかし、明確な用途も示されないまま放置された状態である。敷地東側のテニスコートに関しても、人が頻繁に往来する気配はなく、コートには草が生い茂っている。



写真1. 室戸市 航空写真

3.2 敷地の選定理由

・対象敷地は山の中腹に位置し、太平洋を一望することのできる場所である。海と山、双方を身近に感じることのできる場所である。
・30年以内に発生する確率が90%とも言われる南海地震に伴い、室戸市にある既存の小学校の多くがその津波被害を受けることが予想される。山の中腹に小学校を設計することにより、避難所として機能する。



パノラマ写真



写真2



写真3

4. 方針・コンセプト

4.1 敷地からの着想

・水平に蓄積されてきた地層が、地殻変動により垂直に立ち上がったものが海岸線で多く見られる。大地の力強さを表現するために垂直な層（壁）を並べ、構造体とした。
・敷地北側にある斜面を利用し、斜面と建築物との間に空間を作り出した。
・開発により埋め立てられた土地に、開発前の山の等高線を利用した形状の建築物をつくることにより、この土地に則したものとなる。



写真6

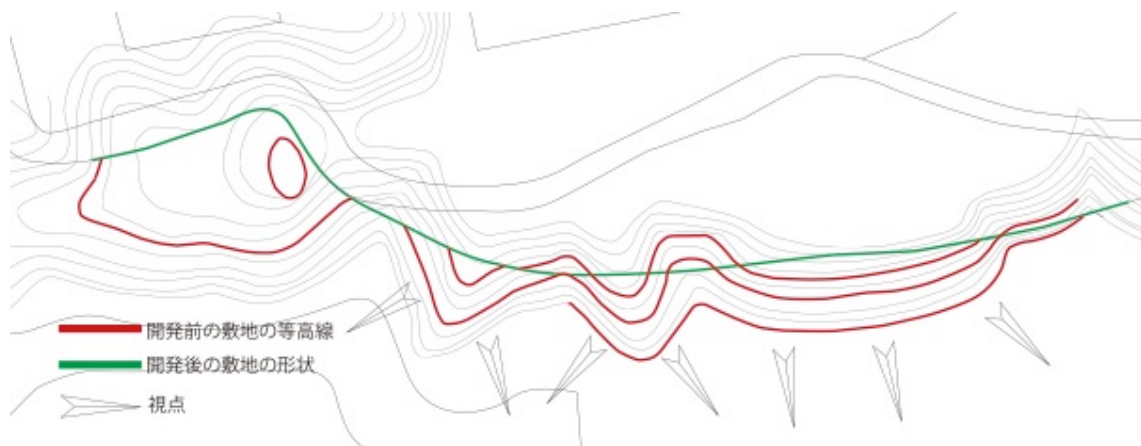


図1

4.2 コンセプト

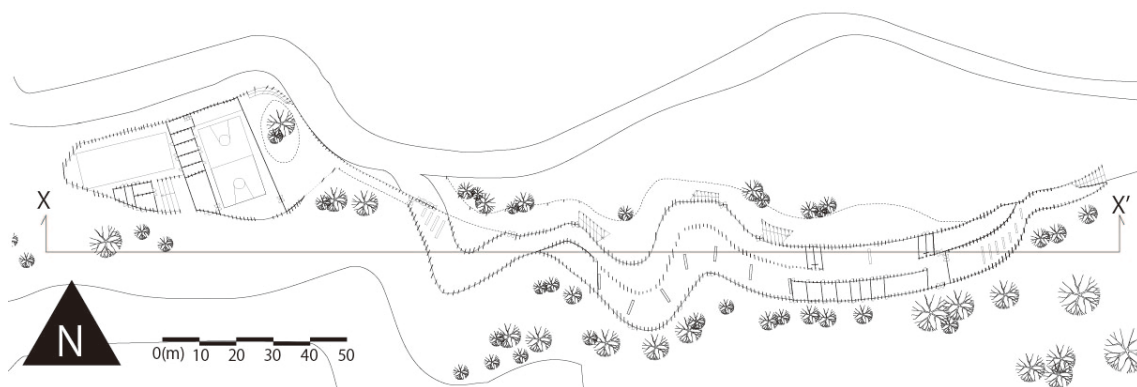
・壁は敷地境界線からつくる曲線の法線上に建つ。場所によって違った光の入り方、また、それによってできた影を楽しむ。

5. 全体計画



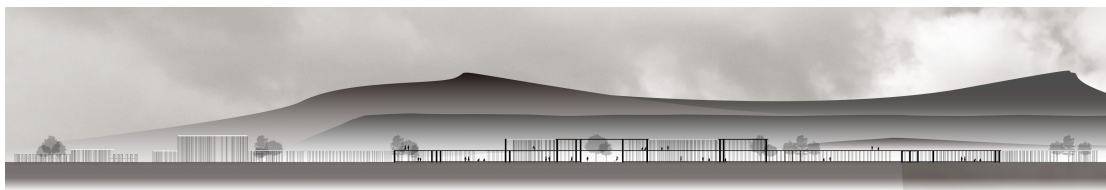
- ・開発前の敷地の等高線と開発後の敷地の形状のそれぞれを合わせ、建物の形を決定する。
- ・等高線を用いた形状にすることにより、それぞれの場所で違った視点が生まれる。それにより自然の様々な表情を見ることができる。

6.1 階平面図兼配置図 S=1:1500



- ・普通教室の前には廊下を設けず、オープンスペースを介して他の教室に移動する。オープンスペースをひとつながりにすることによって、上級生と下級生が見守り合える空間となる。

7. X-X' 断面図 S=1:1500



参考文献：<http://maps.google.co.jp/>、<http://ja.wikipedia.org/wiki/室戸ジオパーク>、<http://www.city.muroto.kochi.jp/hopweb/joho/html/index.htm>